

肉用繁殖牛の草地での周年飼養

《九州版》

秋

イタリアライグラスの耕起造成と
備蓄した暖地型牧草での放牧



夏

ローズグラスやキニアグラスの
暖地型牧草での放牧



冬

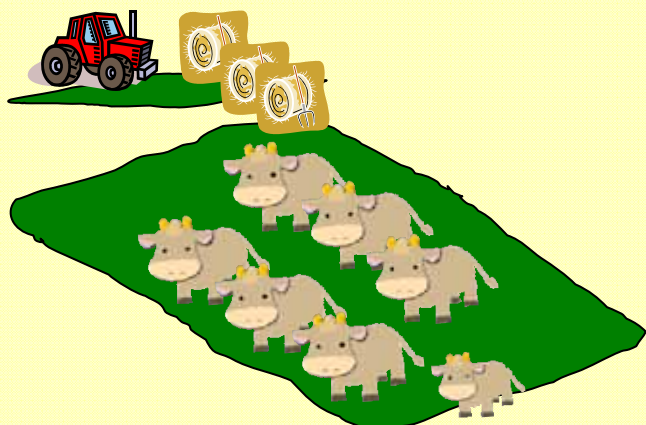
粗飼料を補給しながら
イタリアライグラス草地での放牧

春

イタリアライグラス草地での
放牧



**40aの放牧地で夏季放牧と10a
の冬季補給飼料生産地の組み合
わせで年間延650頭・日の飼養
が可能です。**
つまり、**無畜舎**で年間**2頭**の肉用
繁殖牛の飼養が可能です。



放牧のメリットは、

低投入（燃料や濃厚飼料の削減）
省力化（飼料生産や舎内作業の削減）
家畜の健康改善
繁殖率の向上

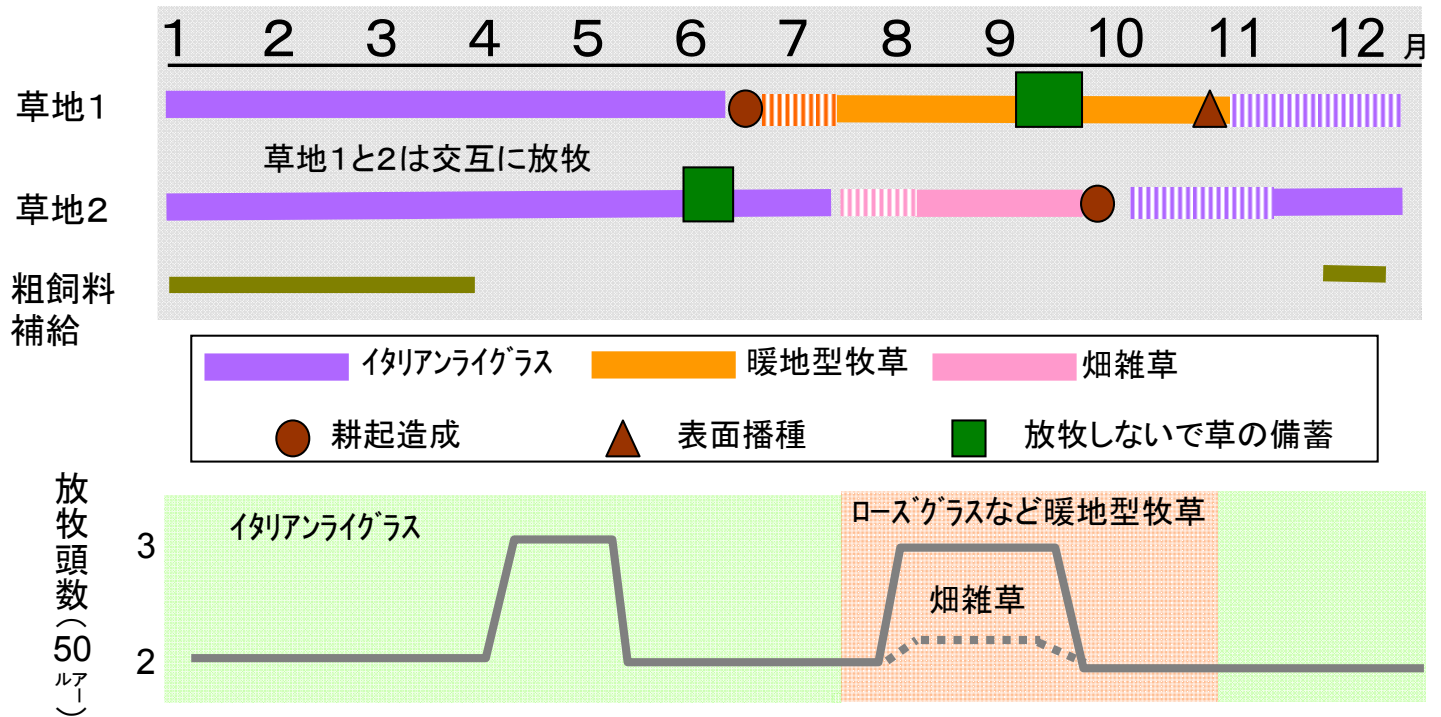
放牧の準備は、

電気柵（ポリワイヤ線、太陽光発電器）
飲水設備（タンクの設置など）
牛の馴致（電線への接触、仲間、食草）
庇陰施設（簡易な遮光ハウスなど）
ダニ対策（林地や藪への放牧のとき）
近隣への挨拶（周囲の不安解消）

- ・ 2頭の放牧を基本とし、草の多いときには増頭します。
- ・ 冬季は草の伸びは小さいので、粗飼料を給与しながら2頭飼養します。
- ・ 40aの放牧地と10aの越冬飼料生産地の合計50aで年間延650頭の肉用繁殖牛が無畜舎で飼養できます。

熊本県菊池郡大津町陣内 上田誠牧場において実証試験を実施（平成20～22年度）

草地の利用の仕方は・・・（2ヶ所の草地を準備します！）



草地の準備

- ・ 冬季も夏季も同じ圃場を使いますが、ほぼ2分して(25aを2圃場)交互に放牧利用します。
- ・ 切れ目なく放牧するために、冬季も夏季にも圃場の一方だけ耕起造成します(図中の●)。
- ・ 冬季にはイタリアンライグラスを、夏季には1年生暖地型牧草(ローズグラスやギニアグラスなど)を使います。ギニアグラスは、熟期が進むと茎が堅くなり残食が多くなるので、ローズグラスが良いでしょう。

放牧の仕方

- ・ 一方の草地が耕起による草地造成中(6月中旬:●■■■■■■および10月上旬:●■■■■■■)には、もう一方の草地のみに放牧します。
- ・ そのため、放牧しないで事前に草を備蓄しておくといよいでしょう(図中の■)。
- ・ 頭数は草の生育量によって加減し、冬季や牧草の切り替え期には頭数を抑えますが、少なくとも2頭を放牧します。
- ・ 春から夏季の牧草生育の旺盛なときには、草の効率的利用のために増頭します。
- ・ 耕起造成した草地の初回放牧や備蓄草地での放牧では、草の踏み倒しが生じ易いので、小区画放牧を行うのが良いでしょう。

冬季は粗飼料を補給

- ・ 12~2月はイタリアンライグラスの生育量は小さいので、粗飼料の補給が必要です。
- ・ 出穂前のイタリアンライグラスの粗蛋白質濃度は繁殖牛には高すぎるので、注意が必要です。

(平成23年3月)